

○議長（河野） 3番、浜口清海君。

○3番（浜口） はい。3番、浜口です。

○議長（河野） 浜口君。

○3番（浜口） はい。

○3番（浜口） 3番、浜口清海でございます。通告に従いまして一般質問をさせていただきます。

質問内容ですが、「先端ICTの町を目指す取り組みは」ということで質問をさせていただきます。

本年3月、香川県知事が綾川町千疋で15万㎡の民間業者による工業団地の整備を発表しました。また、5月7日、綾川町前田町長、香川県知事、高松市長、株式会社ハイレゾ志倉社長との4者にて、立地に関する協定書認定式が執り行われました。

この2つの案件は、今後のわが町の産業振興に、特に情報通信産業に大きく寄与するものだと期待いたしております。

まず一つ目は千疋の工業団地、国の情報データセンターの設立。2つめは、株式会社ハイレゾによる中四国初の「AI開発用GPU専用データセンター」を設立し、旧綾上中学校でGPUサーバー100台。これは、スーパーコンピューター富岳の1.7倍の処理能力にあたります。約100億円の投資額が見込まれます。

そのうえ、(株)ハイレゾはアメリカNVIDIA社からエリートパートナーとして初認定された、国内最初の企業であります。今回のこの明るい、素晴らしいニュースに触発され以下、2つの質問をしてみたいと思います。

1、今回の情報データセンターの設立とハイレゾによる中四国初の「AI開発用GPUデータセンター」の設立により、綾川町にある小中高の児童、生徒たちに、世界の先端コンピューターテクノロジーに触れ、学ぶことができ、生成AIやICT教育を進め、深めることが肝要だと思います。

今後の本町のICT教育への取り組みと、環境が整い次第さらなる高みを目指し、教育特区指定を目指す考えがあるのかお聞かせください。

以上が一つ目です。

2、今回のデータセンターの設立、生成AIの企業誘致によって、今後、他市町村、そして他県からも綾川町に訪れる人々が大幅に増えてくると思います。その人達が本町の先端の生成AI、GPU専用コンピューターに触れ、そして学ぶ機会を作り出す為にどのように取り組む計画があるのかお聞かせください。また他県から、全国からの来訪者を増やす計画と方策をお教えてください。

以上、2点でございます。

○教育長（松井） 議長。

○議長（河野） 松井教育長。

○教育長（松井） はい。

○教育長（松井） 浜口清海議員ご質問の「先端ICTの町を目指す取り組みは」について

お答えします。

まず、小中学校におけるICT教育推進については、GIGAスクール構想によりICT教育の推進に取り組んでおり、1人1台パソコンが整備され4年が経過し、令和7年度末に向けて機器更新の検討が県下で検討されております。

この間、家庭への持ち帰りガイドラインの策定、備品の整備を行い、授業での利用、家庭での利用推進に力を注いでおります。教育委員会では、町では小中学校の教員と情報化推進委員会を設置しており、情報交換と、今後のソフトおよびハード整備について検討すると同時に、情報リテラシーに対する研修も行っております。

さて、ご周知のとおり、旧綾上中学校には、株式会社ハイレゾ社の誘致によりAI開発用GPU専用データセンターが設立されます。中四国初の高性能GPUサーバーを備えたAI開発拠点として、計算資源を稼働し、高付加価値かつ安価なGPUクラウドサービスを展開すると聞いており、県内外の注目を受け、地域活性化が大いに期待されています。ハイレゾ社とは、誘致の協議において、廃校の有効活用として、地域活性化事業の提案があり、その中で小中学校の子どもたちに、1台数千万するGPUサーバーを実際に見学できる体験や会社の専門性を生かしたICT授業の実施などの提案を受けております。

教育特区については、学習指導要領等によらない特別の教育課程を編成する学校を自治体で設けることができるなど、様々な視点による制度が考えられます。ハイレゾ社の機器整備が2年後となる予定であり、その間、どのような提案があるのか、どのように連携するのか、子どもたちにどのような最先端のICT教育の提供ができるのかを検討した上で、特区指定が必要であれば申請を検討することになると考えます。まずは、今、ハイレゾ社と提携し、提供できる教育について協議を進め、特区についても研究してまいりたいと考えています。

また、全国の来訪者への企業見学などの機会についても、整備が完了するまでにはハイレゾ社と協議し、地域活性の一役を担っていただけるよう取り組んでまいります。

町にとって全国的に注目される企業誘致であり、これからの時代の最先端技術が目の前にある絶好の教育資源でありますので、子どもたちに夢を与えられるような取り組みを考えていきたいと考えております。

以上、浜口清海議員の「先端ICTの町を目指す取り組みは」についての回答とします。以上です。

○議長（河野）再質問はございませんか。

○3番（浜口）はい。

○議長（河野）浜口君。

○3番（浜口）はい。

○3番（浜口）力強い強いご回答ありがとうございました。

GIGAスクール構想推進委員会設置をして、進めようという姿勢は、非常に子どもたちのためにも有効な教育手段だと思います。そして、中四国初のGPUデータセンタ

一ですので、これを鳴り物にして、もっともっと、小学生中学生のみならず、高校生にも教育を進め、そして他市町村、他県からも来訪者を進める施策をとっていただきたいというふうに思います。

その辺りの、計画をお聞かせいただければというふうに思います。

○議長（河野）松井教育長。

○教育長（松井）もちろん全国的なICTの機械が入りますので、当然、小中学生、それから高校生の、それはもう希望者になると思いますが、そういったいろんな教育がですね、行われているということであれば、声を聞いて参加できるような、そんなシステムを、また研究していきたいと考えておりますので、はい。よろしくお願いします。

○いいまち推進室長（福家）はい、議長。

○議長（河野）福家いいまち推進室長。

○いいまち推進室長（福家）はい、議長。

○いいまち推進室長（福家）浜口議員ご質問の他方からの来訪者のことについてご説明をいたします。

私どもですね、もう何度もになりますけどちょっと地方創生のところの課でございまして、今過疎地域の活性化を図る中で、過疎地域の活性化の、過疎地域の活性化協議会の設立、それから、未利用施設の有効利用、それから関係人口の創出っていうこの大きな3点でですね、事業の方を進めております。

この中の、2点目の施設の利用というところで、今回、ハイレゾ社が決まったというところで大変喜んでおりますが、こういったところを含めてですね、地域全体で盛り上がって、元気なまちになって、他方からの来訪者っていうところが、綾川町に来れるように、また、空港から近い利点とか様々な利点もですね、こちらからPRしながら進めていきたいと思っております。以上でございます。

○議長（河野）再々質問はございませんか。

○3番（浜口）はい。議長。

○議長（河野）浜口君。

○3番（浜口）はい。

○3番（浜口）これは質問ではなくて要望と提言ですけども、最後にですね、教育に携わる方はよくご存じだと思うんですけども、思わぬですね、役立たずの劣等生からすごい子ども達が生まれることがあります。

私の息子の友人がいじめられっ子の鈍足の子で、不登校になりかけの子やったんですけども、コンピューターが好きで、西条市にいましたが、西条市のですね、コンピューターの本をすべて小学生の間に網羅したということで、学校の勉強はそこそこやったんですけども、一芸に飛び抜けた子がいました。

今現在、私の息子の友人は、東京プライムの上場会社の、大手企業のソフト開発の責任者で第一線でやっております。

教育関係に携わる方に、こういうお話を失礼なんですけども、思わぬ劣等生、勉

強ができないような子でも、すごい可能性を秘めた子は、他にもたくさんおると思います。

これはコンピューターだけでなく、他の分野でも、音楽である。また、ビジネスの世界でも優等生が、ビジネスの世界を制覇していることはありません。やる気のある、覇気のある、子たちがですね、今現在、日本の経済でもですね、頑張っております。

そういう目で、教育に携わる方に私が、お願いするのは恐縮なんですけど、温かい目を向けていただいて、思わぬ子がですね、思わぬ力を発揮するということを知っていただいて、私の最後の要望とお願いに代えさせていただきます。いろいろと、ご指摘ありがとうございました。またよろしく申し上げます。

○教育長（松井）議長。

○議長（河野）松井教育長。

○教育長（松井）浜口委員に反論するわけではございませんが、劣等生であるとか、優等生というのはもう死語の世界でございまして、個性豊かなですね、一人ひとりに持ち味を生かした教育、そういったものを現在進めておりますので、ご安心ください。

以上でございます。

○3番（浜口）すいません。一言お詫び申し上げます。昭和の言葉を使いまして申し訳ありません。純昭和の人間で語彙が少なくすみませんでした。

○議長（河野）以上で、浜口君の一般質問を終わります。